

# 園芸福祉 ～地域での農作業を通して児童と交流し、学校教育への協力を行う～

当園は開設当初から、地域の畑を借用して野菜栽培に取り組み、その後、花作りも行うようになった。花作りを行うようになった頃、地元の小学校から人権学習を行いたいとの意向を受けて、花作りを通しての交流が始まる。交流を重ねるにつれて、小学生の障がい者に対する意識も変わるなど好評を得ている。

社会福祉法人 **清光会**

〒519-4325 三重県熊野市有馬町4520-329

TEL：0597-89-4375 / FAX：0597-89-0375 / E-Mail：kinanhikarien@zvtv.ne.jp

## 【法人の概要】

法人設立年：昭和57年9月

経営施設、事業（数）：2施設 7事業

経営施設、事業（種別）：

知的障害者入所更生施設…1 / 知的障害者授産施設（通所）…1 / 共同生活介護（ケアホーム）…2 / 相談支援事業…2 / 地域活動支援センター（日中一時支援事業）…2 / 短期入所…1

## 【法人の理念・経営方針】

**基本理念** 真に利用者本位の福祉サービスを実現し、地域に根ざした経営を行い、地域福祉の発展に貢献する。

- 基本方針**
- 1 人としての尊厳を大切にし、利用者の権利擁護に努めます。
  - 2 利用者一人ひとりの個性を重んじ、ニーズに沿った個別のサービス提供に努めます。
  - 3 真心をもって創意工夫することで、質の高いサービス提供に努めます。
  - 4 利用者の主体的な暮らしや活動を、専門的な立場で支援します。
  - 5 利用者が快適な地域生活を送れるように支援します。
  - 6 地域の福祉資源の一つとして、多様なニーズに応えます。
  - 7 地域と協働して、だれもが住みよいまちづくりに努めます。

## 実施施設の概要

施設名：紀南ひかり園

施設種別：知的障害者入所更生施設

活動開始年：平成8年4月

活動の頻度・時間：月18（回）、1回あたり4.5（時間）

活動の対象者：①施設利用者 ②地元小学校児童 ③南紀グリーンハウス芝崎氏（花作り） ④御浜天地農業生産法人山本氏

## 活動実施の背景、実施にいたった理由

紀南ひかり園は、一昨年世界遺産に登録された熊野古道を中心に風光明媚な半農半漁の熊野市に所在している。開設当初から自給自足を目指し、地域の畑を借用して野菜を栽培してきた。その後、「自分達も地域で役に立ちたい」という思いから、地域の農家の仕事を請け負うようになった。

そのような中、花作り農家で園芸療法・園芸福祉に熱意のある、南紀グリーンハウス代表の芝崎氏との出会いがあり、指導を受けながら花作りを行うようになる。同じ頃、芝崎氏から地元で三重県初の公立で小中一貫校である尾呂志学園の人権学習を行いたいとの意向を受けて、花作りを通して児童らとの交流が始まる。

また、5年ほど前から地域の行政を中心として園芸福祉の考え方が広まり、その中で農業生産法人の御浜天地（代表山本氏）と出会い、農作業の依頼を受け、多岐に亘って作業を受け持つようになり、現在に至っている。

## 実施内容

利用者の多くが重度・高齢化する中で、この作業に関わっているメンバーは、中軽度の障がいのある男性7名と、支援員3名である。今年で8年目となる尾呂志学園との交流事業は、小学生と協同で土作りを行い、育苗してその生育した花は両施設の環境美化や、一部は販売を行っている。交流の実施回数については9月から1月迄の期間で、月に1回行っている。当初はお互い緊張していたが、交流を重ねるにつれて利用者と児童が播種や植え方を教えあったり、冗談を言い合ったりと、園芸をコミュニケーションの潤滑油として作業に取り組んでいる。

一方、御浜天地農業生産法人は、当施設から車で10分程の場所に位置しており、梅作りを中心とした生産者である。その傍らでトマトやレモン、菜の花などの野菜栽培にも取り組んでいる。

利用者の作業内容は、梅枝剪定後の回収、食用菜の花作りや、紫蘇の栽培から加工である。個人の能力に応じて役割を持ち、自閉症の方には職員の支援により、独自のパタ

ーンで作業に取り組めるような配慮も行っている。

### 活動効果

尾呂志学園との交流事業は、小学生から「最初に感じた怖いという気持ちはもうありません」との言葉や教員からも、「児童にとって人権学習、特に障がい者を理解する上で、教室の中の学習だけでは限界があり、大変有難い」という言葉を頂いた。このことから、彼らが将来成人した時には、障がい者のよき理解者となってくれると期待することが出来る。また、利用者にとっても児童に教えてあげたり、会話する喜びが意欲に繋がり、充実感を感じている様子であった。

御浜天地農場での活動においては、障がい者が地域に出て働くということが何度か新聞やテレビでも報道されるなど、地域における注目度は非常に高まっている。利用者も自分たちが栽培・収穫・加工したものが、スーパーや地域の販売所で商品として扱われている事に感動し、社会の一員としてやり甲斐を持って取り組む事が出来た。また、菜の花の土作りの目的（除草と肥料）で緑肥用ひまわりを2500m<sup>2</sup>の畑で栽培し、見事な花を咲かせ、見学者が訪れるなど地域の方たちにも大変喜ばれた。

### 今後の課題

現在、当施設の利用者は重度・高齢化が進み、体力的にも衰えがみられている。御浜天地農場に携わる利用者も高齢であり、メンバー交代も思うようにならないのが現実である。また、請け負っている作業には納期がある場合も少なく、施設の行事などで作業が出来ない日が急に出来た際には迷惑をかけてしまう場合もあり、課題も多い。障害者自立支援法による新体系移行の中で、このような地域に密着した取り組みがどこまで継続していけるかも危惧されるところである。

今後は、当法人の併設施設である通所授産施設の利用者も視野に入れて、この取り組みを継続的に行っていければと考えている。

### 主な経費や財源の内訳（年間あたり）

<主な経費>	<概算額>
花の種、肥料等	¥130,000
燃料費	¥200,000
その他雑費	¥5,000
<合計>	¥335,000

<主な財源>	<概算額>
その他の収入 (作業請負工賃他)	¥335,000
<合計>	¥335,000

